

「なんで、こんなもの食べてたの？」

主幹教諭 安達 雅美

今年度、本校では、改めてじっくりと授業づくりに取り組みました。生徒たちがいきいきと学ぶ授業を参観しましたのでご紹介します。

対象教科は、社会の歴史分野、太平洋戦争による被害や当時の国民生活を知る授業です。事前の授業者間の打合せでは、当時を知らない生徒にとって、いかに想像力をかきたて「気づき」を引き出せるのかが大事なポイントになると確認していました。

授業当日、生徒たちは、登校後すぐに水団（すいとん）を練りましたが、仕上げは先生がする算段でしたので、水団汁がどんなものか全く分からないまま社会の学習に入りました。3時間目、授業が始まり、アルミの碗で水団汁が配膳されると、これまでおしゃべりをしていた生徒たちは、一斉に口を閉じ、腕（わん）の中身に釘付けになりました。良い感じですが、湯気が温かさを知らせますが、鼻を効かせてもほぼ匂いはありません。何か似た食べ物も思い浮かばない様子で、誰も全く言葉を発しません。勇気を振り絞るかのように、おそろおそろ口を碗につけて汁をすすりますが、ものすごく慌ててすぐに水を一口飲み、「なにこれ?! 美味しくないね…?!」がっかりしたよりも、むしろ強く興味がそそられた様子です。すぐさま自分たちで作った白く浮かぶ水団にかじりつきました。大きな目をいつも以上に見開き、「なんで、こんなもの食べてたの?!」と、一言。参観していた私たちは、この言葉に学びの芽が出たことを感じました。この一言から、授業に活気が広がり、ある生徒が「ねえ、ねえ! 今のご飯の方が良いよね?」と話しかけると、いつもは言葉数が少ない生徒が「うん」と、目をきらきらさせながら深く頷き返します。さらに「鉄砲の勉強を学校でするのは、嫌!」と当時の生徒たちの生活に想いをはせることもできました。授業の最後に、必ず振り返りシートをつけていますが、この日は、どの生徒も心から出た自分の言葉でまとめをすることができていました。授業者は、「想像していた以上に生徒たちから様々な感想が出てきたので、すっかりたじろいでしまいました。」と、振り返っていました。

当初の打ち合わせでは、授業者より、当時の写真を資料として用いて、今の生活との比較から時代背景に気づかせたいと話していましたが、生徒の立場で考えると、資料だけで「気づき」を引き出すのは、相当に難しいと思われました。そこで、ある先生が「水団を作ってみませんか?」とアイデアを提案してくれました。当時の食事を再現し、試食することで、生徒たちの五感が刺激され心が動き出せば、授業者が求めている「気づき」を引き出すことができるかもしれない、と考えたからです。

今年度、授業づくりに特化した授業開発部が設置され、部長としても授業づくりに関わってきましたが、この授業づくりを通して、生徒が持つ伸びしろに改めて気づかされました。授業づくりは、試行錯誤の連続ですが、これだから楽しくてやめられません。このような授業をこれからも教員一同、力を合わせて作っていきたいと思います。